

特別寄稿

SDGsは世界変革を目指す「自分ごと」

〜SDGsの「基本」(第2回)〜

茨城大学人文社会科学部 野田真里教授により、SDGsの「基本」をわかりやすく説明していただく連載の2回目です。今回は、SDGsが何を指し、どのような構造を持つ目標なのか、私たち一人ひとりの生活にどのように関わっているのかについて、より具体的に説明していただきます。



■著者紹介：野田真里 氏
 茨城大学人文社会科学部 教授
 専門は国際開発学・SDGs 行政、企業、NGO/NPO などでの講演や研修、アドバイザー等の実績多数

SDGsを深掘りする

17目標だけではありません

前回のおさらいとして、自治体でのSDGs推進が加速化している現状、第1の「基本」として、SDGsは「開発」つまり生活の質の持続的な向上にむけた国際的な政策目標であること、第2の「基本」として、SDGsは国際社会全体が一致団結して取り組むグローバル目標であることを説明しました。今回は、SDGsはカラフルなロゴでよく知られる17目標だけではない点を、わかりやすく深掘りしていきます。

SDGsは「誰一人取り残さない」

世界への変革をめざす『2030アジェンダ』の核心となる行動計画

SDGsの第3の「基本」は、

世界変革を目指して採択された文書に含まれる、核心となる部分であるということ。国連総会で採択されたSDGsを含む文書の正式名は『我々の世界を変革する…持続可能な開発のための2030アジェンダ』です。「2030」はSDGsの達成目標年である2030年を意味します。「アジェンダ」(agenda)とは、議題などの意味でも使われますが、ここは本来の「未来になされるべきこと」(フテン語が起源)です。『2030アジェンダ』前文には、次の通り崇高な決意が力強く宣言されています。

「我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解き放ち、地球を癒やし安全にすることを決意して

いる。我々は、世界を持続的かつ強靱(レジリエント)な道筋に移行させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段をとることに決意している。我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、誰一人取り残さないことを誓う」(外務省 仮訳、傍線は筆者)。

こうした人類の解放と地球の安全にむけた、壮大な世界変革の行動計画を具体化したものがSDGsの17目標になります。また、紙面の都合で説明ができませんが、SDGsの柱である「5つのP」すなわち、人間(people)、地球(planet)、繁栄(prosperity)、平和(peace)、パートナーシップ(partnership)をはじめ、17目標の基盤となる重要事項が説明されて

います。SDGsをよく理解する上で『2030アジェンダ』は30数ページの文書で和訳もありますので、ぜひ一度、読んでいただくことをお勧めします。

SDGsは三層構造をもつ、世界共通の羅針盤・モノサシ

SDGsの第4の「基本」は、三層構造をもつ、世界共通の羅針盤・モノサシであるということ。世界全体が持続可能な開発の推進にむけて共に歩むべき道程を示し、かつ、その歩みを共通の尺度で測り、経験を共有しながら取り組むことが可能となっています。三層構造とは17の目標、169のターゲット、そして244(重複を除くと242)のグローバル指

標を指します。以下、ジェンダーを事例にみていきましょう(表)。

第1層はよく知られる17の目標であり、持続可能な開発の3つの側面である経済・社会・環境について、地球規模での目指すべき大きなビジョンが示されています。目標5では「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」と、やや抽象度が高い、野心的な目標が掲げられています。よく目にするSDGsのロゴにある訳文(例:5ジェンダー平等を実現しよう)は分かりやすい反面、簡略化されていますので、目標の全文を読んでいたいくことをお勧めします。

第2層のターゲットでは、目標の内容をより具体的に示したものとあります(目標年や数値が含まれる場合もあります)。例えば、ターゲット5.5は女性の参画とリーダーシップになります。なお、ターゲットの中にはアルファベットがついているものがありますが、目標達成のための手段であることを意味しています。例えば、ターゲット5.bの「女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する」がこれにあたります。

表 SDGsの三層構造(目標・ターゲット・指標)	
(第1層)	目標5:ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
(第2層)	ターゲット5.5:政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する
(第3層)	グローバル指標5.5.1:国会及び地方議会において女性の占める議席の割合 グローバル指標5.5.2:管理職に占める女性の割合 出典:外務省Japan SDGs Action Platformより筆者抜粋・編集



そして、第3層の指標では、SDGs達成にむけた取り組みの進捗を数字で示し、測るものとなります。例えば、5.5の女性の参画というターゲットの進捗を測るための指標は、5.5.1 議会において女性議員の占める割合や、5.5.2 職場での管理職の割合、といった形になります。

おわりに

—SDGsは「自分ごと」・地球規模で考え、地域から行動しましょう

本SDGs連載の最後に、強調しておきたい第5の「基本」があります。それは、SDGsは「自分ごと」であり、私たち一人ひとりの行動が世界を変革していくことにつながる、という点です。どこか遠い国のこと「他人ごと」ではなく、私たち一人ひとりがこの地球に住んでおり、世界を動かしているという重要な点です。

なかには、持続可能な開発という、どこか貧しい国のこと、「開発が進んでいる」豊かな日本には無縁なことのように思う方もいるかもしれません。しかし、決してそうではありません。例えば、ジェンダー平等は持続可能な開発にとって不可欠ですが、世界経済フォーラムが発表している「グローバル・ジェンダーギャップ・レポート」によりますと、日本のジェンダー平等度は116位(2022年)となっており、日本はジェンダーの観点では「開発が遅れている」国なのです。これは、先進国の中では最低で、アジ

アでも中国や韓国、東南アジア諸国より低い水準です。

SDGsのジェンダーにかかわるターゲット5.4は家事労働について述べられていますが、その指標5.4.1は「無償の家事・ケア労働に費やす時間の割合(性別、年齢、場所別)」となっています。日本は家事労働における女性の負担が重いとされていますが、それぞれの家庭で、男性の家事労働を増やすことがこのグローバル指標の改善につながり、ひいてはSDGsの達成につながるのです。

私たち一人ひとりの行動がすべてのSDGsの目標達成に不可欠であり、地域社会での取り組みが世界へとつながります。皆様とともに、おなじ地球市民として「誰一人取り残さない」持続可能な未来に向けた世界の変革に向けて、地球規模で考え、地域から行動していきましょう。

